

昭和50年度水稻・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和50年度水稻・畑作関係生育調節剤試験の成績検討会は、昭和50年12月16日、農林年金会館（東京）で開催された。

本年度は、水稻関係14薬剤、畑作関係7薬剤、その他1薬剤が供試されたが、判定結果を示すと、次表のとおりである。

昭和50年度水稻・畑作関係生育調節剤審査判定および使用基準

A. 水稻関係

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) オキシペロン液	・ インドール酪酸 0.4 %	・ 稚苗の発根促進 ・ 健苗育成の活着促進	実, 継	・ 播種後10日500倍液を育苗箱当り500ccを灌注する。 ・ タチガレン処理を併用する。	
2) KC-481液	・ ニコチン酸アミド 10 %	・ 発根促進 ・ 健苗育成 ・ 活着促進	・ 寒地 実 ・ 他地域 継	・ 播種時10～20 ml/箱散布する。 ・ タチガレン処理を併用する。	
3) ベンジルアデニン液	・ N ⁶ -ベンジルアミノ プリン 3 %	・ 老化防止 ・ 活着促進	継		・ 実用化の検討をさらに進める。
4) RNA粉	・ 酵母リボ核酸 95 %以上	・ 登熟促進	実, 継	・ 最高分けつ期および穂揃期にa当たり60gを茎葉に散布する。 ・ 展着剤を加用すること。	
5) エスレル液	・ 2-クロロ-エチル -フォスフォニック アシド 10 %	・ 倒伏防止	継		・ 散布時期・散布量について更に検討する。
6) JG-01液	・ 椎茸菌糸体抽出エキ ス ・ 非水分 700mg/100ml	・ 生長促進	継		・ 作用機作の検討をする。

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
7) UMP 粉	・ 5'-ウラシル酸ナトリウム 95% 以上	・ 登熟促進 ・ 不稔防止 ・ 収量増加	実, 継	・ 最高分けつ期に a 当たり 60 g を茎葉に散布する。 ・ 展着剤を加用すること。	・ 登熟期の気象条件との関係を検討する。
8) N-2000 水和	・ 9-ベンジルアデニン 1 %	・ 転び型の倒伏防止	継		・ 倒伏防止についてさらに検討する。
9) RH-531 水溶	・ 3-カルボキシ-1-(P-クロロフェニル)4,6-ジメチル-2-ピリドン (Na 塩) 96 %	・ 高密度播種条件下での苗質向上 ・ 徒長防止	実, 継	・ 15 葉期に 50~100ppm 水溶液を苗代 m ² 当たり 150 ml の割合で茎葉に噴霧する。 ・ 展着剤を必ず使用する。 ・ 処理 20 日以後に移植する。 ・ タチガレン処理を併用する。	
10) RH-103 水溶	・ 3-カルボキシ-1-(P-クロロフェニル)4,6-ジメチル-2-ピリドン (Na 塩) 43 % ・ 2,4-ジクロロフェノキシアセティックアシッド 870 %	・ 倒伏防止	実, 継	・ 出穂前 40~50 日 45g/a を茎葉に散布する。	・ 散布時期を出穂前 50 日, 45 日, 40 日として検討。
11) カルシウムペー オキサイド粒	・ CaO ₂ 54 % 以上	・ 稲ワラすき込みによる活着不良防止, 根ぐされ防止	実, 継	・ 400 ~ 800 g/a を生わらと一緒にすき込む。	・ 適用条件の明確化。
12) カルシウムペー オキサイド粉	・ CaO ₂ 54 % 以上	・ 機械播種のための剤の開発および播種法の検討。	実, 継	・ 粉衣量; 浸漬剤 100g に対し 30g を粉衣して播種する。 ・ 適用条件; 湛水直播。	・ 作業機との関係を更に検討する。
13) ブタクロール乳	・ 2-クロル-2', 6'-ジエチル N (ブトキシメチル) アセトアニリド 60.0 %	・ ペーパーボット苗の根絡み防止	継?		・ 効果不明瞭。

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
14) ACN水和	・ 2-アミノ-3-クロル-1,4-ナフトキノ 90 %	・ ベーバーボット苗の根絡み防止	実, 継	・ 寒冷紗に 1 ~ 2 g/m ² を予め吸着させベーバーボットの下敷とする。	・ 最適値について地域別に検討。
15) RH-315 水和	・ 3,5-ジクロル-N-(1,1ジメチル-2-プロピニル)ベンズアミド 500 %	・ ベーバーボット苗の根絡み防止。	継?		・ 効果不明瞭。

B. 畑 作 関 係

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) 31603-S 水和	・ 2-ベンズイミドイル-3-ヒドロキシ-1,4-ナフトキノ 90 %	(ばれいしょ対象) ・ 収量増加	継?		・ 効果不明瞭。
2) ポリイソブチレンオキサライド	フィルム	(落花生対象) ・ 光崩壊ポリマールの実用性の検討。	継		・ DM-40 Eを中心に更に検討。
3) KP-1100 乳	・ 未公開	(落花生対象) ・ 無駄花の開花を抑え増収をはかる。	継		・ 作用機作の検討。 ・ 効果再確認。
4) JG-01 液	・ 椎茸菌糸体抽出エキスを 非水分 700mg/ml	(とうもろこし, 甘藷, 大豆, てん菜対象) ・ 収量増加。	継?		・ 作用性の検討。
5) ビーナイン水溶液	・ N-(ジメチルアミノ)-スクシンアミド酸 80 %	(落花生対象) ・ 収量増加。	継		・ 散布時期との関係を検討。
6) カルシウムペーオキサライド粒	・ CaO ₂ 54 %以上	(大豆, 小豆, 菜豆, ばれいしょ, 落花生対象) ・ 発芽促進および初期生育増進。	継		・ 過湿地対象に検討。

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
7) ジクワット液	・ジクワット・ジプロ マイド 30%	(大豆, 小豆, エンドウ対象) ・落葉促進 ・子実乾燥効果	・小豆 実, 継 ・大豆 (エンペイ) 中 止 ・エンドウ 中 止	収穫7日前に15~30cc/a を散布する。	・処理後のさやの成熟 過程と霜害との関係 を検討する。

C. そ の 他

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) SL-51	(成分未公開)	・イネおよびコ ムギの発芽に 及ぼす影響。 ・一時貯留時に おける水稻生 粒に及ぼす影 響。 ・球根ベゴニア の落花防止。 ・巨峰の脱粒防 止。	継		・初年目。

昭和50年度水稻作関係

除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和50年度水稻作関係除草剤の試験成績検討会は、昭和50年12月17日より3日間、東京農林年金会館（東京）において開催された。ここにその結果の概要について紹介する。

1. 供試除草剤の動向

本年度委託総点数は863点で、これは前年

度の1,012点に較べて約15%の減である。内容的には従来の成苗移植栽培を主体とした試験から前年度に引き続き稚苗移植栽培対象の試験が増加し、成苗での試験92点に対し稚苗移植栽培では771点が試験された。全国的水稻栽培面積のうち、稚苗機械移植栽培の占める割合が61%と報告され、また、一部の県では80